

# ミスミノウ（広義）

*Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai

キンポウゲ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー

該当なし

## 選定理由

早春に開花する代表的な春植物で園芸採取され、激減している。(現況:V-)

## 形態

根生葉は3中裂、やや革質、裂片は卵状広三角形で、基部は心形である。幼時の葉裏や葉柄には白毛が目立つ。葉柄は長い。

## 国内分布

本州と四国に分布する。

## 県内分布

県内全域のヤブツバキクラス域やブナクラス域下限に分布する。

## 生態など

高さ10~15cmの小形多年生草本である。開花期は3~4月。花の色は淡紅、紅、白色とさまざまな色を呈する。コナラ、ミヤマガマズミなどの林床に生育する。

## 生育環境

落葉樹林の林床に生育する。

## 危険要因

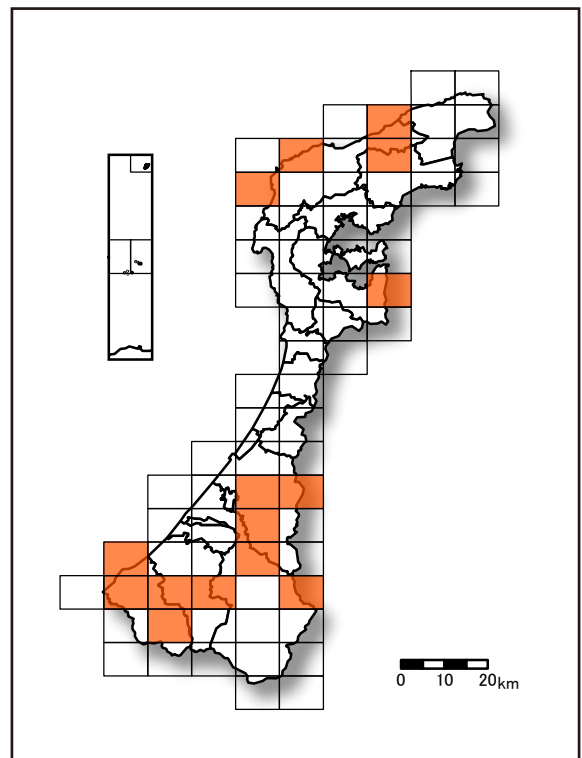
森林伐採、土地造成、園芸採取、踏みつけ。

## 特記事項

2000年版では、*Anemone hepatica* L. var. *japonica* (Nakai) Ohwi f. *variegata* (Makino) Hara としたが、北半球この分類群は *Hepatica nobilis* と同一種に属し、日本産のものはその変種とすることにほぼ見解が一致してきたので、そのように変更した。本書いしかわレッドデータブックでは掲載分類群は変種までとしているので、品種は区別しない。したがって変種名の *Hepatica nobilis* var. *japonica* ミスミノウ(広義)として記述する。本県産のものは、f. *variegata* スハマソウ(狭義)に接近した形態のものがある。能登半島国立公園内には有名な生育地が知られている。



林 二良・2007年3月23日・外浦



県内の分布